

第 1 回教育委員会臨時会会議録

令和 5 年 8 月 1 日（火）

場 所：委 員 会 室

出席委員	教 育 長	雨 宮 和 人
	教 育 長 職 務 代 理 者	山 口 直 樹
	委 員	操 木 豊
	委 員	大 野 孝 儀
	委 員	佐 藤 有 里

出席職員	教 育 部 長	橋 本 祐 幸
	教 育 総 務 課 長	石 田 進
	教 育 施 設 担 当 課 長	島 崎 健 司
	教 育 指 導 支 援 課 長	荒 西 岳 広
	指 導 担 当 課 長	川 畑 淳 子
	指 導 主 事	小 島 章 宏
	指 導 主 事	小 柳 津 章 文

国立市教育委員会

付議案件

区 分	件 名	
報 告 事 項	1) 教科用図書の採択に関する要望書について (1件)	
議案第47号	令和6年度使用国立市立小学校教科用図書の採択について	
議案第48号	令和6年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について	

○【雨宮教育長】 それでは皆さん、こんにちは。7月ですけれども、下旬ですね。つい先日までということですが、8日間連続で猛暑日を記録したということで、これは過去にない記録ということです。各委員の皆様には、十分健康状態に留意をして、教育委員活動のほうに励んでいただければと思います。

それでは、ただいまから令和5年第1回教育委員会臨時会を開催いたします。

ここで教育部長から発言を求められておりますので、これを許します。

橋本教育部長、お願いいたします。

○【橋本教育部長】 本日の臨時会でございますが、石田教育総務課長が体調不良のため欠席しております。よろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。そのように取り扱わせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、本日の会議録署名委員を操木委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

○【操木委員】 はい。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

それでは審議に入ります。



○議題（1） 報告事項1） 教科用図書の採択に関する要望書について

○【雨宮教育長】 最初に報告事項1「教科用図書の採択に関する要望書について」を議題といたします。橋本教育部長、よろしくお願いいたします。

○【橋本教育部長】 要望は1件でございます。子どもたちが主催者の社会科教育を求める会様より、「現行の教育出版・6年社会教科書のQRコードから、兵器ショーのような『防衛省・自衛隊KID SITE』にリンクする問題に慎重な対応を求める等の要望書～軍事オタクの児童にindoctrinationしないために」の要望書をいただいております。以上でございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。本要望書についてでございますけれども、採択議案に関わるものでございますので、前例に倣い、この場で意見等の取り扱いは行わないということでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。では、そのように取り扱わせていただきます。



○議題（2） 議案47号 令和6年度使用国立市立小学校教科用図書の採択について

○【雨宮教育長】 それでは、議案第47号「令和6年度使用国立市立小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。最初に、事務局から説明をお願いいたします。

荒西教育指導支援課長、お願いいたします。

○【荒西教育指導支援課長】 それでは、議案第47号「令和6年度使用国立市立小学校教科用図書の採択について」、ご説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項に基づき、国立市立小学校で令和6年度から令和9年度の4年間使用いたします各教科の各教科用図書につきまして、採択いただくことになります。

国立市立学校の教科用図書採択要綱に基づき設置されました審議会の調査結果につきましては、先に開催されました7月18日の定例教育委員会において、机上に配付しました資料のとおり、教科用図書審議会委員長からご報告させていただいております。また、6月14日から7月10日までくにたち中央図書館及び国立市立公民館において、教科用図書展示会を実施いたしました。市民等の皆様から23件のご意見を頂き、7月の定例教育委員会において配付をさせていただいております。

説明は以上になります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ただいま教育指導支援課長から説明を頂きました。それでは、審議に入りたいと思います。去る7月18日開催の定例教育委員会で、教科用図書審議会から審議結果の報告を受けました。各教育委員におかれては、審議結果やアンケートを基に、国立市の公立小学校にふさわしい教科用図書についての考えを深めていただいたことと思います。

それでは、教科ごとにご意見を頂きながら、令和6年度使用小学校教科用図書についての採択をしていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。そのようにさせていただきたいと思います。

それでは、最初に国語からご意見を伺いたいと思います。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 審議会の調査結果を見たのですけれども、国語で5、6年生の教科書についてです。記述の中に、1冊なので便利だという記述と、それから、分かれているから軽くて持ちやすいという、両方の長所が述べられていると思うのですけれども、この辺、統一したどちらのほうが審議会ではいいのかというところがもしあればお聞かせください。

○【雨宮教育長】 荒西教育指導支援課長、お願いいたします。

○【荒西教育指導支援課長】 こちら調査研究の委員長のお話ですと、国語については1冊についてのほうが便利であるということでした。国語は、担任やほかの教員が教えることもありまして進度に差が出るということから、上下巻、両方使うような場面も出てくるということで、こちらは1冊にまとまっていたほうが使い勝手がいいというご意見でした。ただし、1冊にした場合、客観的な事実としましては、やはり子どもにとっては重いかないといったところで、そのような記述になっているといったことでした。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。今の質疑ということですが、ご意見はございますか、引き続き、お願いいたします、大野委員。

○【大野委員】 結論から言って光村図書がいいかなと思います。やはり定評のあるところは、長年の歴史から見てもそうだし、多分、光村図書の教科書使用というのは5割あるいは6割ということに、全国的になるのだらうと思います。また、ちょっと関係ないのですけれども、昔の光村の教科書を調べるようなことも今できるようになっていて、そうすると非常に、昔学んだ教科書の文章を読むたびに、その頃が思い出されて非常に懐かしいという意見もあります。ますます何か国語における光村というのは不動の位置を占めるような感じがするのですけれども、それは今ちょっと本題とはあまり関係ないのですけれども。

本題に入ると、かなりもう何年も前からある「おおきなかぶ」とか、この辺は、光村だけではなくて、東書でも取り上げておられますし、挿絵などもちょっと同じ会社もあったので、こういうもう小学校の教科書においては定本というのか、そういうような位置づけの教材も多くあって、それが各社それぞれ取り上げていると思うので、全くそれぞれの会社が独自ということはないと思うのですけれども、取り上げられているのは複数の教科書会社ではあるのですが、やはり光村を推したいなと思います。

あと、これも東書にもあるのですけれども、立松和平の「海の命」もなかなかよかったと思います。あと、光村ですけれども、6年の教科書で「考えるとは」という短い文章で、3人の方の短い文章があり、そこから考えるとは一体どういうことなのかという問いかけをしているというのもなかなか魅力的でした。ゆえに、光村図書を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 国語の教材はやっぱり教材としてよい教材かどうか。それから、学んでいて楽しくなるような、あとバランスが取れているかどうか、みたいなどころを見ていきたいなと思って見させていただきました。結論を言いますと、やはり光村図書さんのところが、しっかり文を読ませるような内容だということとか、あと、「季節の言葉」というのはもう毎回見ているのですごく気に入っているのですけれども、そこら辺がいいなと思いました。見通しがあって、また振り返りをしっかりできるような内容かなと思いついて、光村図書さんを推薦いたします。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 審議会のほうの報告の中にもありますけれども、光村の「見通しを持つ」のページがとても充実しているということでした。私も実際に見て、4年生を振り返るとか、それは目標と照らし合わせての振り返りの、そこに導く、そういった手法がいいなと思いました。また、図を使って情報を伝えるときのその言葉の使い方。そういった取り上げ方もいいなと思いました。なかなかよくできたなと思いました。ただ、あとほかの教科書を見てみまして、例えば教育出版社の「国語の学びを日常生活へ」という、そういった導きがあって、それが、例えば6年生で「みんなで作ろうパンフレット」とか、パネルディスカッションのこととか、やっぱり学んだ国語の力を使って、それを日常生活へ発展させていくというか、やっぱり使って初めてその価値が出てくるという導き方がすばらしいなと思いました。それから、読書をすごく大切にすることということで、紹介の本の冊数が随分多いなと思いついて、こういった国語も新しい視点として必要かなと思いついて、では、どちらがいいのかということ、どちらもすばらしいのですけれども、どちらかと言えば教育出版社を私は推したいと思います。以上でございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 国語の授業では子どもたちの価値観が広がるように、世界が広がるようになってほしいなと思いついて、そういった中で、どの教科書がいいかなという視点で見させていただきました。真面目な感じのする会社もあつたかなと思いついたので、その中で一番バランスのよいのは光村図書がよいと感じました。導入として、どうやって学んでいくのかなというタイトルだったりとか、そんなところは子どもたちも柔らかな感じで授業に取りかかっていることができるのではないかなと思いついたので、文字も読みやすいなと思いついて。「本の世界を広げよう」は、本当にそれぞれの学年で興味を持ちそうな本が選ばれていて、科学に関するサナギの秘密や足の裏図鑑なんていうのは、とても私も読みたいなと思いついた次第です。一人で考えて、その後、一緒に考えて、ということかできる工夫がされている教科書だと思いついてました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私も意見を申し上げたいと思いついて。まず今回、基本的な姿勢といたしましては、審議会で出された結果ですね。この報告を尊重していきたいと思いついておられます。また、私、今回、視点としてちょっと考えたことがございまして、特に国立市の市政運営の特色というのですかね。力を入れているという分野でいうと、障害者理解ですとか、またSDGsですね。それから昨今、気候変動ということも言われている中で、その自然災害というような点ですかね。こういうような記述とかがどうなっているのかなというのを少し視点として置きましたので、冒頭申し上げさせて

いただければと思います。

そういう中で国語においては、光村図書がやはりいいのかなと。各観点の評価が総じて高いと受け止めました。少し個別に入っていきますけれども、とてもいい記述、あるいは印象に残ったものということで申し上げますけれども、6年の教科書の中に、人間は他の生物と何が違うのかという本文の中にこういう表現があります。「人種、障害の有無、性的指向などにかかわらず誰もが平等に大切な存在です」ということが紹介されております。これは本当に国立市が目指す方向性に合致をしており、とてもよい素材だなと思ったことを挙げさせていただければと思います。

それでは国語ということでございますけれども、光村を挙げる方、あるいは教育出版もございましたが、多くの方が光村図書というような形で意見が出ましたので、そのように決定、採択させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【**雨宮教育長**】 ありがとうございます。それでは、国語は光村図書を採択するということとしたいと思います。ありがとうございました。

では、続いて書写に参ります。いかがでしょうか。大野委員、お願いいたします。

○【**大野委員**】 見た感じすごく全体がすっきりしているという印象を受けました。光村図書を推したいのですけれども、すごく全体がすっきりしているという感じを受けました。同じ国語と書写ということで、多少なりとも関連性があるのかもしれないのですけれども、全体的に写真の色使いもとてもよかったと思いますし、見やすくすっきりしている。これが光村図書を推す理由です。

○【**雨宮教育長**】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょう。佐藤委員、お願いいたします。

○【**佐藤委員**】 どの教科書も分かりやすいなと感じました。中でもやっぱり光村図書は、どんな文字があるかなというところから始まるので、文字を書きましょうというところではないきっかけをまず、興味関心を引いた上で子どもたちがゆっくり書写を楽しんでいく導入になっていくのではないかなと思いました。手紙の書き方などもすごく丁寧でしたし、違った書き順で書くとおかしな文字になるよねというようなことが分かりやすく表現されていて、そういったところも子どもたちには受け入れやすいものになるのではないかなと感じました。以上です。

○【**雨宮教育長**】 ありがとうございます。操木委員、お願いいたします。

○【**操木委員**】 書写につきまして、各社それぞれ工夫をされていて、子どもたちの興味関心を持たせるための工夫とか、目当てとかがしっかりしていたりとか、あるいは中学校の毛筆のほうにもつなげるような、そういったことを全ての出版社が狙っていると感じました。現場の先生たちの声を聞くと、やはり国語は国語、書写は書写なのですけれども、同じ会社のほうが使いやすいという声は確かに聞いていますね。審議委員会の中でもそのような声もありましたので、先ほど国語のほうが光村に決まりましたので、それを受けると、書写も光村になるかなと思います。以上です。

○【**雨宮教育長**】 ありがとうございます。山口委員、お願いいたします。

○【**山口委員**】 私も、1つは、国語と同じ会社さんのほうがやりやすい部分はおありになるかなと思います。あと、光村図書さんのところでは、面白そうだなと思ったのは、体操のところがあって、書く準備、気持ちのところでも。あと、全部の会社さんそうだったのですけれども、書く姿勢のことは非常に細かく丁寧に書かれていて、書き方が若干それぞれ会社で違うのですけれども、しっかり書かれていて、それ全部いいのかなと思いました。光村図書さん、楽しく入れている、特に1年生がですね。スタートのところでも楽しく入れるような工夫もされていると感じましたので、光村図書さんを推薦いたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私のほうですけれども、私も光村図書がよろしいのかなと思いました。これも各観点の評価が、総じて各社さんの中で、こちらの図書が高いと受け止めました。また、国語との関連性もやはり重要かなと思った次第です。1つトピックとしてまた申し上げたい部分としてですけれども、5年の文字の大きさというところがあるのですが、この例文が、ジェンダー平等について考えよう、生物に関係なく、平等な機会を得られる社会を目指そうという例文が載っていて、これはすごくよい素材だなと私は思ったところでございます。

それでは、書写ですけれども、全員が光村図書というご意見だったと思います。光村図書を採択することですらよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、書写は光村図書を採択することといたします。

続いて、社会に参りたいと思います。では、ご意見伺いたいと思います。いかがでしょうか。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 社会も3社さんに出していただいています。この4年間、その間にいろいろな社会的な状況の変化というのがたくさん出てきています。先ほど教育長が言われたようなSDGsの問題であるとか、多様性の問題であるとか、それから、感染症のこともあって、これはちょっと教科書にどこまで反映できるかのタイミングがあったのですが、様々な社会が変化をしている部分があるのですけれども、3つの会社さんともそこら辺をできるだけ多く言及をされようとしているなというのはすごく感じて、よかったです。

私自身が社会で感じている部分はいろいろな問題があって、それを自分自身の問題として考えながら将来に結びつけていくということなのですかね。勉強していく流れとか、考え方、それが問題解決型の授業につながっていくようなことが社会科ではすごく重要かなと思っています。あと、平和とか国際、あとさっきの持続可能な社会に関する問題。また、人権についての事柄というのがやっぱり大きいかなということは思っております。そこら辺のポイントがどうかということ考えていったときに、現行使っている教育出版さんがまたいいかなと思うのです。さっき言った問題をつかんで、それで調べてまとめて将来につなげていくという流れがすごく分かりやすく示されている。それから、人権とか平和に関してもしっかり述べられている。国際的な問題に関しても述べられている。各社さんあるのですけれども、その中で特にそこら辺を考えました。あとは、前回も述べたのですけれども、憲法に関して、五日市憲法に関する記述が、結構、教育出版さんは詳しく述べられておりました。そこら辺は評価したいなと思っておりまして、教育出版さんを進めたいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 なかなか憲法の問題、平和の問題というのは言葉一つでいろいろな解釈が生まれたりして、微妙なところだとは思いますが、結論から言うと、教育出版を推したいのですね。憲法の改正を巡っても様々な意見があります、というのは6年生の教科書にありますし、憲法9条においても自衛隊を持つことが合憲であるか違憲であるか、その両方がある。それから、次に平和主義についても、自分の国が大きな損害を被ったわけだけでも、それと同時にアジアをはじめ外国にも大きな損害を与えましたというのは、これも6年生の教科書に載っていて、その辺の記述はバランスが取れているのかなという感想を持ち、教育出版を推したいと思います。

また、なお、これはほかの教科でもしばしば出てくると思うのですけれども、中村哲医師ですね。中村哲さんのことが述べられているということも大きなポイントかなと思いました。

東京書籍でちょっと気になったのは、ほとんど全ページにわたってドラえもんが出てきて、6年生の教科書だと思うのですけれども。それでいろいろ解説をするのですけれども、解説というかドラえもんが話すようなパターンをとっているのですが、ちょっと多すぎるかな。また、歴史を学ぶ上でのドラえもんの登場というのは、ちょっと私の中ではややそぐわないのかなという感想を持った次第です。結論から言って、教育出版を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員お願いいたします。

○【操木委員】 社会科は、つかむ、調べる、まとめる、生かすと、そういった学習の流れがあるわけなのですけれども、まず、結論から申し上げますと、教育出版を推したいと思います。今、言いました中の調べるというところが、やっぱり一人一人の子どもたち、自分の個に応じた、しかも主体的な学びを促す格好の場所だと思うのですけれども、そういった自分で調べて考えるというところをすごく大事にしているのが教育出版かなと思いました。例えば自然条件と人々の暮らしだとか、米づくりの盛んな地域、自動車の生産に励む人々、日本の工業生産と貿易運輸、自然災害とともに生きると、この辺り自分で調べて考える。そのページがとても充実している。多分これは新企画だと思うのですけれどもね。こういったことの工夫も優れている点かなと思います。以上で、社会科については教育出版を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 社会では3、4年生は地域と自分だったり、5、6年生はもっと広がった社会と自分だったりということを学べる内容がいいなと思って3つの教科書を見比べました。どこの教科書も興味関心を引く内容になっているなと思いました。教育出版はその中でもSDGsの取組を分かりやすく掲げていて、ページとしては数ページずつになっていましたが、私はどの単元でもこのSDGsにつなげていけるような形に、もっと増やしてほしいなと感じました。調べて、自分で資料を読み取って考えて、友達と共有するという流れがすごく楽しい授業になるのではないかなという構成になっていると感じました。もっと知りたいページがあるので、もっともっと知りたいなと思った児童が自分で調べられる仕組みになっているのもいいなと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私のほうの意見になります。先ほど操木委員がおっしゃられた、つかむ、調べる、まとめる、生かすというところ、この学習段階は私も非常によろしいかなと思いました。そういう点から、教育出版がよろしいかなと思ったところでございます。

個別についてちょっと付け加えたいのですけれども、6年の教科書ですけど、この持続可能な社会づくり、SDGsに着目をしてみました。この資料ですとかあるいは写真ですね。この数が多いのは、日本文教出版でした。一方、本文の中に、教育出版においては、人や国の不平等をなくそうという目標は、誰もが生まれながらに持つ自由に人間らしく生きる権利を尊重されるという日本国憲法の基本的人権の尊重の考え方と関係していると思う。戦争について学ぶことで、平和と公正を全ての人にとりという目標の大切さが分かったよ。核兵器をなくす取組などが世界で広がっていくといいね、という記述がとてもいいなと思いました。また、障害者理解の部分ですけれども、同じく6年で、障害者差別解消法にあった基本的人権の尊重とは、国民は誰もが人間らしく生きる権利を持つという意味なのだ、障害者差別解消法は基本的人権の尊重と関係があるみたいだねという記述もございまして、とてもいいなと思ったところでございます。

それでは、社会については全委員が教育出版を採択したいということでしたので、そのような結論でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、社会は教育出版を採択することといたします。

続いて、社会、地図についてです。いかがでしょうか。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 地図帳のほうは、海岸線や河川がはっきりしていて、帝国書院さんはとても分かりやすいなと思いました。カラフルでしたし、山の高さを比べてみようだったり、クイズ方式の都道府県の問題が出ていたりということは、子どもたちは飛びついて、楽しんで学ぶことができるのではないかなと思いました。世界の山のイラストが両方ともあったのですけれども、それについては、東京書籍さんのほうが分かりやすいかなと思って、山の形が出ていたので、世界の山に登りたいという気持ちになるのではないかなと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 いろいろ統計的に見てみると、かなり帝国書院さんの地図を使っている方が多いなど、どこかの資料で見たことがあるのですけれども、根強い人気があるなということも聞いております。地図ということについてなのですけれども、例えば昔、私が若かりし頃は、車の中に道路マップが置いてあったりとか、出かけるときも地図を見て、要するに、目的地へ向かうためとか、どこにあるのかとか、そういう位置を知るための使い方をよくしたのですよね。ところが今、車には誰も今、地図を載せていませんし、ナビゲーターが案内してくれますし、歩くときだってスマホを見ながら案内してもらって、目的に行くには、そういった便利なツールがいっぱいある。地図について、3年生から使うようになったというのは非常に意味があって、やっぱり点と点、目的地ではなくてもっと空間的なものとか、広がりとか、自分の地域とほかの地域を比べてみるとか、そういった使い方をするのが地図だと思うのですね。そういう意味では3年生が使いやすいように、また、もっと大きくなってからも使いやすいように、両方の視点から学べる地図がいいかなと思います。それで言いますと、両者とも、帝国とそれから東京書籍は見ていていいと思うのですけれども、小さい子どもたちにとって見やすさというのは、やっぱり私は東京書籍のほうに優れているのではないかなと思いました。帝国のほうの地図の約束とか、3年生で分かるような配慮がされていますけれども、産業のこととか、それから特産物とか伝統などのイラストの表記とか、各地の特色が分かりやすいというような、そんな審議会のデータにも載っていますけど、そんなことから考えてみて、東京書籍の地図を使っていてもいいのではないかなと思ひまして、今回は東京書籍の地図を推したいと思ひます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 地図帳を見るときに、もう既に視覚ですから、さっき光村は、国語はとても定評があるという話をしたのですけれども、それよりも視覚に訴える分だけ、帝国書院の地図帳というのは、私にとってみれば不動の位置を占めているような感じがするのですね。したがって、それは子どものときからこの地図に慣れ親しんでいるわけなので、地図と言えこれでしょうと、もう感覚的にそういうのができているので、全く客観的に地図帳を見比べて、どちらのほうがどうだということがなかなか言えないのではないかなという疑問は持ちました。ただ一方で、長年使われていて改良も多分少しずつはされたのでしょいうけれども、なおかつ、今でも帝国書院を使うところが多いというのは、それが地図帳の不動の位置というのはちょっと大げさかもしれないのですが、そのぐらいまでいっているということは、そこにやはり定評がある、そういう裏づけがあるのだろうなという推測もあり、帝国の地図を推したいと思ひます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 地図というもの、活用がどんどん、どんどん広がってきているのかなと思いますし、ほかの教科でもいろいろな意味の資料として活用していく可能性はすごくあるのかなということも思ひまして、そういう部分もあって、両方の会社さんも、資料等々はすごく充実して、工夫されているなというこ

とは感じたところであります。私、やっぱり地図は地図ということで、地図としての見やすさみたいところで、やっぱり見ていきたいなと思うと、どうしても帝国書院さんのほうが見やすいなということは感じた部分であります。そんなに差はないかと思うのですけれども、どちらかといえば、帝国書院さんを推薦したいと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私のほうですけれども、私も帝国書院のほうを推したいと思います。方位ですとか地図記号など地図の約束ですね。これが大変大きく見やすく分かりやすいのではないかと思います。また、何人かの委員さんがおっしゃっていました、いろいろな方面に活用が広がっているねという、まさにそのとおりでと思います。そういう意味で冒頭に申し上げた視点から、こういうのがあったのですけれども、SDGsと世界の課題ということを取り出しているという内容がございましたので、これはとてもよい記述だなと思ったところでございます。

それでは、地図でございませうけれども、東京書籍を推す意見もございましたけれども、多くの委員が帝国書院というような形でのご意見いただきましたので、地図については帝国書院を採択したいと思いたるけれども、いかがでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは地図については帝国書院を採択することといたします。

続いて、算数に入りたいと思います。どなたかご意見ございますでしょうか。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 算数は6年間勉強して、それから中学校で数学につながっていくという部分がある部分で、好き嫌いとか、いろいろなところが出やすい教科なのかなと思います。その中で、でも、やっぱりすごく大切な教科であるのは間違いないので、教科書として、ここはよく分からないな、考え方分からないなというところで、その子にとって理解が深まるようなポイントが、これは教え方による部分もすごく大きいと思うのですけれども、そういうところに気を遣っているのかな。もう一方では、直感的にぱっとこれはもう分かってしまうよと。すぐ分かってしまうよという子も出てきて、これはもう人に説明できなくても、これはこうでこうなのだよと分かる子にとって、逆にその子たちがその先に興味を持って、学んでいくことがすごく大切かと思うのですけれども、そういう部分というのがあるのかどうか、先生が教えやすい教科書になっているかどうかがポイントかなと私は思っております。それから、もう1つ、算数、数学の必要性が実際の生活上とどう結びつくのかというところは1つポイントかな。これも随分、各教科書工夫されて作られているなど思ったのですけれども、それもポイントかなと思いたるして、審議会の報告にもあったのですが、私自身も見ていて東京書籍さんのものがやっぱり指導しやすいし、また、まとめのところでもう一度、一番大切な見方とか考え方を振り返るようなことができるつくりになっている。それから先ほど言いました補充問題ですね。それも適当な量、適当な内容であるのかなと。ほかの会社さんに比べてそういう部分があるのかなと思いたるして、東京書籍さんを推奨したいと思いたる。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私は学校図書を推薦したいと思いたる。審議のほうの委員会から上がってきた内容の選択のところに、数直線や棒グラフなどが多く用いられていて、文章題に対しても自分で考えるための手段が導き出しやすい資料となっていると書いてありますけれども、非常に導入の段階、それから目当て、あとはまとめ、次へのつながりといった、その流れが非常に分かりやすい。それから、2つ目の計算の決まりを扱った教材が多いということと、あと、漫画のようなところはいいのですけれども、導入の場面が、

さっきのことと重なりますけれども、子どもにとって興味を持ちやすいということがいいかなと思ひまして、いわゆる、子どもたちが学びたくなる、そんな教科書かなと思ひました。これは主体的で対話的で深い学びへ近づくための学びたくなる、あるいは、教師が使いたくなるような教科書ではないかなと思ひまして、学校図書を推薦いたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 審議会の報告を見てなのですからけれども、視覚的に捉えやすいとか、あるいは太字で見やすくなっているとか、その辺の視点からなのですからけれども、大切な点かなと思ひました。算数に限ったことではないのですけれども、やっぱり全般的に教科書のページがどんどん、どんどん増えていって、そしてややもすると一昔前にあった詰め込み式な教育というのに行ってしまうのではないだろうかという、そういう懸念もあると思うのですね。だからどこかで精選するとか、あるいは見やすいとか、そういった点が必要かと思ひます。ただもう1つは、何かのエピソードによって、算数は面白いなというそのきっかけづくり、それが入っているといいなと思うのですが、それが入っているのがあるのですね。東京書籍の5年生の大谷翔平の文章なのでしょうかね。自分がバッテリーボックスに立って、単純な三角形にそれを置きかえて、体重のかけ方とか足の開きとか、そういうことを考えているのだということと算数というのと結びつけての大谷翔平の文章があって、これはかなりのインパクトで、みんな算数やりたいになっている気がするくらいのもので、動機づけとしては非常にいいかなと思ひました。したがって、東京書籍を推したいと思ひます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 算数は体験しながら学んだりお友達と答えを導き出す、楽しいと感じられる授業に、算数になってほしいなと思ひて、そういったことができる教科書はどれかなという観点で見させていただきました。教育出版さんは、半分に分けようとか、100メートルを歩いてみよう、1キロを歩いてみようとか、チラシで2割引になっているものを見て、お得な買い方はどうしたら、どういったものなのかという、身近なもので体験しながら学んで、いいなと思ひました。もう1つ、東京書籍さんのほうは、3年生のそろばんはとても分かりやすいなと思ひたのと、自分で気づいて解決していくことができるのは、東京書籍さんかなと思ひました。考える手がかりを見つけて、気づいて、振り返ってということができるとかなと思ひたので、算数もグループの席の体系でどんどん授業をしていただけるような形のほうがいいのではないかなと思ひ、その授業に合うのではないかなと思ひました。また、動画のQRコンテンツでは、立体が分かりやすく3Dのようになるので、イメージすることが苦手な児童にも取り組みやすいものになってくるのではないかなと感じました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私のほうは、東京書籍を推薦したいと思ひております。どの会社の教科書においても、小学校入学前の関連づけですとか、あるいは中学入学後の学びなど、その学校接続への配慮というのは、とてもされているなということをおもひました。また、各委員からも出ていますけれども、日常生活に生かす事項も取り上げられていて、とてもいいなと思ひたところがございます。今回は防災とか、ちょっと自然災害というところに着目をしました。その学びなのですからけれども、3年生の下巻になるのですかね。この問題で、避難場所の距離などを、コンパスを使って調べてみるというようなこと。4年の下巻ですか。これも問題なのですからけれども、自然災害についてのデータから分かることですか、自分で考えたことを説明するというような問い。それから5年の下巻のやはり問題ですが、自分の家から避難場所までの道のりから歩いてかかる時間を求めるということがございまして、これらは昨今の気候変動に伴う異常気象ですとか、あるいは日常生活にも関連づけられており、非常にとて

もよい問題だなと思ったところでございます。

それでは、算数ですけれども、学校図書を押す声もありましたけれども、多くの委員が東京書籍というようにご意見でしたので、算数については東京書籍を採択するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、算数は東京書籍を採択することといたします。

続いて、理科について参りたいと思います。どなたかご意見ございませんでしょうか。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 自然現象とか、あるいは草花を見て、宇宙を見たり、そういうことをしながら、いかにそこにわくわくを感じることができるのかというのが理科の要諦だと思います。どこの教科書会社も写真がたっぷりあって、地層なんかもすごくクリアに写っていて、どこもすごいなと見ました。わくわく感が生まれるだろうな、写真からですね。そんな印象を持ちました。その中でも教育出版を推したいと思いません。

ちょっと直接理科とは関係ないのかもしれないのですが、ここで算数とのつながりということで、温度計を使って縦の軸、横の軸ということの説明して、それを実際の生活に温度計を見ながら、算数との結びつきということ述べている点などもいいのかなと思いました。あと、6年生でしたか。ページの最後のほうにSDGsのことが写真入りで取り上げられているというのも特徴だったと思います。また、当然かもしれないのですが、教育出版は初めに目次があるので、どういう項目があるのかなということがすごく見やすかったですね。ほかの教科書では、あれ、なぜ目次がないのだろうと思ったら、一番ラストにあって、ちょっと見づらいというところもあったので、見やすさという点からとって、教育出版がよかろうかなと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 理科については5社ですかね、出ていて、各社とも、本当に今も出ましたけれども非常に資料が豊富ですし、きれいですし、見やすいし、分かりやすいというところで、どの会社も優れているなと思います。努力をされているのだなということを感じました。

そう見ている中で、私は最終的に2社に絞り込んできたのですが、1つは学校図書ですね。1つは教育出版社です。学校図書については審議会でも出されていますけど、単元の初めのほうに、この問題を見つけようというところですね。この辺りがその学習に入りやすいということを感じました。それから、見つける、予想する、計画を立てるとか、そういった流れがあって、問題解決の流れで書かれているところは、学校図書のすばらしいところかなと思いました。

もう1社のほうの教育出版のほうですけれども、やっぱり身につけさせたい力というのが明確に書かれているという報告がありましたが、本当にそのとおりだと思いました。それが具体的に何年生、6年生の力とか、そういったことでも表されているということ。それから、先ほど出ましたけれども、他教科とのつながりが分かりやすく示されている点。それから、5年生の野外体験教室で訪れる地域が掲載されているということで、昨日、ちょっと私、国立一小が行っている野外体験学習の近くを通ったのですが、何かそういったつながりを感じて、国立の子どもたちとつながっているのかなと、そんなことを感じました。最終的には、教育出版を推したいなと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかに。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 理科では自然をたくさん知ってもらいたいなと思っているので、その中で子どもたちにとって取り組みやすい教科書を見させていただきました。一番調べ学習のイメージが付きやすいのではな

いかなと思ったのが教育出版さんで、パソコンで調べたり、その後、博物館で調べられるよう、資料館で調べられるよう、気象庁や日本気象協会というものがあるのだよということで広がりがあるのと、どんなところに行ったら調べられるかというヒントがもらえるので、興味を持った者に対しても応用が利くものになっているのかなと感じました。また、SDGsのマークが掲載されていて、未来に向かってどのようにしていけばいいのか、自分がどう生きていきたいのかということも分かるものではないかなと感じました。動画のことをまたお話ししますが、昆虫の世界を立体的に分かりやすく伝えていただけのものでしたので、この点もよかったです。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 理科に関しては、持続可能な世界のこととすごく関連のある教科である部分と、あと、さっきの社会科もそうだと思いますが、この理科も本当に自分自身でいろいろな問題を意識して、過程、こうかな、こうかなと実験をして考察するという、いわゆる問題解決型授業の典型的な部分かなと感じまして、その部分がどうかと。あともう1つ、やっぱりいろいろな事故が起こる部分。実験とかが強いですから、そういうのもあるかと思います。そこら辺の安全への配慮のところがどうかというところで見させていただきまして、教育出版さんを推したいと思うのですけれども、やはり問題解決への流れというのは、やっぱりこなれているなど。全部の会社さん全部作られているのですけれども、一番こなれているなどということを感じているところであります。

それから、SDGsはもちろん触れられているのと、あと、裏表紙に安全への配慮というのが出ていて、これはもうぱっと教科書をひっくり返せば出てくるので、すごく分かりやすいなと思って、ここはやっぱり強調する必要があるなと思って、この点、現在の教科書も同じですけれども、同じように踏襲されているのでいいかと思いました。教育出版さんを推奨します。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私も教育出版でよろしいのではないかなと思いました。理科も、多くの教科書で主体的、対話的で深い学びの実現に向けた工夫がなされていると思います。また、他教科との関連づけも非常に工夫されていると思います。総合的に判断して見やすく、分かりやすく、学びやすいという評価をさせていただきました。

個別の部分でちょっとだけ一言申し上げますと、5年生の教科書で、気候変動により増える災害というような記述が入ってしまして、これはとてもよい記述だなと思ったところでございます。

それでは、理科については全委員が教育出版というご意見でしたので、教育出版を採択することによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、理科は教育出版を採択することといたします。

ここでおおむね1時間、開始から経過しておりますので休憩を取りたいと思います。10分間の休憩を取らせていただいて、2時40分再開ということでよろしくお願いいたします。

(休憩)

○【雨宮教育長】 それでは休憩を閉じて議事を再開いたします。続いて生活について、ご意見ございませんでしょうか。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 生活科は多くて、6社さんが作っていただいています。ありがとうございます。生活は、1年生、2年生が学ぶところで、子どもたちが小学校に入って、本人も成長していますし、環境も変わる中で、行動範囲とか関心の部分が非常に広がっていく、非常にタイミングのところでも重要な教科かと思っております。教科書をパラパラと見ていると、最初の作り方が各会社さんで結構違って、いろいろ分か

りやすく書いてあるところと、何も字がなくて、絵とか写真中心で出ているところと、子どもの興味をどう引くかというのをいろいろ考えて作られているのかなということを感じたところです。そんなところで、子どもたちがわくわく感ですね。この勉強する中でいろいろなわくわくを感じられるかどうか、興味関心が広がっていくかどうかということがポイントかと思ってみました。また、もちろん、いろいろな行動範囲とか関係が広がることによつての、もう一方での安全への配慮みたいなどころというのがやっぱり必要な部分かなというところを感じて見させていただいて、各会社さんともそれぞれ工夫をされている部分があるのですけれども、私とすれば、全体を見て使いやすかったり見やすかったりということが、東京書籍さんのものかなと感じております。

また、それぞれの会社さんでいいなと思ったのは、それぞれの会社さん全部工夫して作られているのですけれども、東京書籍さんは便利手帳という形が最後のほうにまとまっていて、あれは使いやすいのではないかなというところを感じたところでございます。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 審議会の報告にもありますように、東京書籍が全体的にすっきりとしていて見やすいという文言があるのですね。これもこの生活だけではなくて、何か審議会の意見で多く出てくるのは、やっぱりすっきりしている、そぎ落とされている。何でもかんでもいっぱいいくつけない。何を落としていくか。その辺に重きがあるのかなと私は思いました。結局教える側にすると、何でもかんでも盛り込まれて書かれてしまうと、にっちもさっちもいなくなるようなところを、そのポイントだけ書かれることによつて、教員の裁量であったり、自由な幅というのがそこに生まれるのかなと思ったのですね。先ほども言いましたように、どんどんページ数が増えてくる。10%ぐらい増えているのですかね。そういう教科書が、ページ数が増えていく中に、どんどん増えて、QRコードも増えて、たくさん増えればそれは充実だというのとはまたちょっと違った視点というのは必要かなと思います。

東京書籍の具体的な中身でいいますと、花が咲く、花があるのですけれども、花があつて、そして同じページに種があつて芽があつて花があつてと。それがとっても見やすくすっきりと示されているところですね。それからもう1つ、一番いいなと思ったのは、まちの風景を鳥瞰図で、上から描いているイラストがあつたのですけれども、公園をゆったり見せてくれることで、イメージが膨らんだのですね。やっぱりさっきの話でも共通するのですけれども、余白の大切さというか、全部詰め込まないという、そういうところをうまくポイントとして見せているなという感想を持ちました。ということで、東京書籍を推したいと思ひます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 生活科はいわゆる小学校に入って、小学校での学校生活とか学び、全てがスムーズに行えるように、広げられるようにという、そういう多くの大きないろいろな狙いもあるわけなのですけれども、そういう視点から見て、やっぱりスタートカリキュラムの扱い方というのはすごく大事になってくるかなと思います。やっぱりそこがイメージしやすいようなスタートができるようになっているかとか、それから幼稚園や保育園、こども園にとって幼児教育との関連づけがどうされているのかという、そういうことがすごく大事になってくると思います。そういう視点と、それからまた3、4年生の理科や社会、あるいは総合的な学習でつなげるという役割を持った教科だと思ひますので、そういう視点等で見つた場合に、私としては東京書籍を推したいなと思ひました。

今言った視点で見つてみますと、審議会の報告にもありますけれども、スタートカリキュラムの意識がされている、各社そうなのですけれどもね。特に東京書籍の場合は感じたということ。それから、本当の大

きさ、生き物図鑑ですかね。これはやっぱりすごくイメージしやすいということ。それから、今も出ましたけれども、すっきり感とか見やすさとか、あと活動便利帳といったものが使いやすいのではないかなという、そんなことで東京書籍を選びました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 生活科は教室以外でたくさんわくわく体験できる教科書がいいなと思って、そんな観点で見させていただきました。光村図書でヨシタケシンスケさんのイラストが起用されていて、やはりそれは親しみやすいなと私も感じました。また言い回しのほうでも、こんなことがあるかもねとか、こんなこともいいかもよとか、断定しない言い回しがたくさん使われていて、自分らしく、君らしく大きくなってねというメッセージが込められている教科書だなと思いました。

1つ、スズメバチのところに、近づかないという記載があって、どんなときにも近づいては駄目ではなく、近づいてはいけない状態のスズメバチと、近づいても大丈夫な状態があるのではないかなと思いますので、そういった表現の工夫を少ししていただくほうがいいなと感じました。

東京書籍の教科書は、先ほどからやっぱりすっきりして見やすいのではないかなという意見がありますが、私もやっぱりそのように思います。分かりやすく、これから何をするのがとても明確なので、子どもが安心して取り組めるのではないかなと感じました。デジタル生き物図鑑は、本当に動画で見られて、教科書では見られない情報がたくさん吸収できるので、そういったところでは学習をしていけたらいいのではないかなと感じました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私も東京書籍でよろしいのかなと思っています。多くの委員がお話をしていただいたとおり、全体的にすっきりしているところ、それから、報告書にもありますけれども、この上巻の花を咲かせようというところですけども、植物の成長の様子が分かりやすく、紙のサイズを変えることによって、ページをめくることなく、種、芽、花という成長過程、先ほど大野委員もおっしゃっていましたが、こういう工夫はすごく見やすくよかったです。以上です。

また、違った観点で障害者理解という部分でちょっと見てみますと、車いすの児童が活動に参加する様子ですとか、盲導犬を連れている大人ですとか、あるいは音響信号機ですとか多機能トイレなどのイラストですとか、あるいは写真も多く引用されていて、とてもよろしいのかなと思ったところがございます。

それでは、生活については、皆さん、東京書籍というご意見でしたので、こちら、東京書籍を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。生活は東京書籍を採択することといたします。

続いて、音楽でございます。どなたか。山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 音楽は2社さんが、教育出版さんと教育芸術さんが出させていただいております。それぞれ音楽の楽しさをしっかり伝えようということで作っていただいております。私とすれば、音楽を楽しんで親しむ、それからよさを感じることができるようであればいいなということをお願いしながら見させていただきました。その中で私が感じたのが、にぎやかな感じもちょっと感じられた部分もありますので、教育芸術社さんが全体のよさを伝えるようなことができるのではないかなと思ひまして、そちらを推奨いたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 結論から言うと、教育芸術社のほうを推したいと思います。今、小学生を取り巻く音楽環境というのは、随分ミュージックテクノロジー的には発展して、技術的にすごく発展していると思うの

ですね。いろいろな要素があって、それはそれで1つの進歩だと思うのですが、学校教育の中で、いわゆる名曲と言われる、人々が長い間、感動してきた曲、語り継がれる曲ということをお大切にしていきたいなという思いがありました。教科書に載っている曲自体が、教芸のほうを選曲としていいと思いました。

1、2、具体的な話をしますと、クリーガーという人の作曲したメヌエットがあるのですが、これは何と、思い起こすのですが、自分が小学生ぐらいのときに触れた曲が今でも載っているぞと。ずっと載っていたかどうかは分かりませんが、とても自分自身にとっても忘れ難い曲だったのが1つ。あと「エーデルワイス」も載っていましたね。これもやはり名曲中の名曲で、小学校、中学校で親しめていいと思うのです。多分教芸は、中学の教科書でも「エーデルワイス」は載っていたと思うので、少し高度な和音を加えたり、あとは英語になったりしているけれども、同じ曲を取り上げているので、よほどこれは推している曲なのかなと思うのですが、そういった意味から名曲がそろっているなということで、教育芸術者を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 音楽は、2社とも写真も多いですし、イラストもかわいくて、楽しんで音楽ができるなと感じました。そういった中でも自由さを感じたのは教育芸術社のほうだったので、自由にお友達と楽しむことができるのいいかなと感じて、本物の楽器を演奏する写真なんかがたくさん出ていることだったり、いろいろな子にとって受け入れやすいのは、こちらのほうかなと感じました。あと再生紙なども使っているということで、SDGsの意識を持った会社なのかなとも感じたことが選んだ理由です。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 音楽の教科書、先ほど地図でちょっとお話ししましたが、教育芸術社の教科書、かなりいろいろなところで使われているとお聞きしていますし、そういう場面も実際に見てきたのですね。そしてそれぞれの解説している曲も多かったし、すごくよく使われている教科書だと思います。小学生の音楽の資質というか、力というのは、学校に入るまでの音楽の環境がどうあったのかということが、すごく一人一人の違いがある教科。本当にいろいろな楽器を演奏して、中には曲を作ったりして、そういう状態で小学校に入ってくる子どももいますし、音符のことがよく分からないとか、逆に言えば、音楽はあまり好きではないという子どもとか、その違いがすごく大きいなということを感じています。

それから、子どもではなくて教える側ですが、音楽については、大きな学校では、1年生、2年生とか、低学年は学級担任が指導している。いわゆる、音楽はあまり得意ではない教師も音楽を教えている、そういう場面もありますし、小さい学校ですと、1年生から6年生まで音楽専科が教えていて、高度なテクニックを持った人たちが教えるのです。つまり大人も子どもも、いろいろな人たちが関わる教科であるという視点で見ると、名曲ももちろん大切にしないではいけませんが、いろいろ新しいものを取り入れて、今の子どもたちに音楽の楽しさを知ってもらって、そして好きになって、もっと音楽を学びたい、もっと音楽の力をつけたい、そういう視点でこの教科書2社を見させていただきまして、私は教育出版を推したいなと思います。

一番の理由は、さっき昔からの曲を大事にしていると。それもすごく大事なのですが、教育出版の場合は新曲を、例えば1年生ですと5曲、2年生で1曲、3年生で3曲、4年生1曲、5年生3曲、6年生6曲という新曲、新しい教材曲がいっぱい入っている。そういったチャレンジ。なぜこんなに入れた

のかというのは、やはり音楽の楽しさを知ってもらいたい、また音楽を分かりやすく学んでもらいたいという工夫の表れではないかなと思います。特に3年生の「マジカル シラソ」という器楽の曲が入っているのですが、リコーダーを初めて学ぶ子どもたちが、スタートの段階から、簡単に曲として成立するような、シトラとソを使った、そういった曲でもって演奏し、リコーダー、音楽って楽しいなということを知ってもらおうと。そういった意図をすごく感じるのですね。そんなことから、私は教育出版社を推したいなと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

それでは、私は教育芸術社を推したいと思います。発達段階において必要な技能を身につけさせたいということですね。これは6年間を通してバランスが取れているのではないかという評価をしたいと思いません。

個別の部分でございます。音楽の持つ力と自然災害という視点になるのですが、5年の「楽器図鑑」というところに、2011年の東日本大震災における演奏者の記述ですとか、また6年の「音楽のもっている力や役割」というところにおいては、1995年、阪神淡路大震災がきっかけで生まれた曲が2011年、東日本大震災のときも多くの人たちを勇気づけたエピソード、これが写真つきで紹介をされていると。これはとても広がりという意味ではよいものだなと思いました。

これはちょっと別の視点ですけども、加えて申し上げますと、例えば車椅子利用の児童とかが音楽を楽しむイラストとか、そういうものが入ってくるといいのかなと感じたところがございます。そういう意味で言うと、教育出版の6年の音楽では、巻頭に辻井伸幸さんを見開きで紹介しているのですが、これはとてもよい取組といたしますか、記述だなと思ったのを感想で付け加えさせていただきたいと思いません。

では、音楽でございますけれども、教育出版を推す声も頂きましたけれども、多くの委員が教育芸術社ということでもございました。音楽については教育芸術社を採択するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、音楽については教育芸術社を採択させていただきたいと思いません。

続いて図画工作でございます。では、ご意見をお願いいたします。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 日本文教出版を推したいと思いません。開隆堂との2つですけども、どちらとも、最初ぱっと見たときには、昔、我々が習ったことと違って、伝統的な美術というよりは、前衛的な、道具も新しいものだったり、墨を使ったり、割と抽象画というか、前衛的なものが、そんな匂いがしたのです。でも、よくよく見ていくと、日本文教出版のほうは、見ていくうちに突然マティスの絵が出てきて、マティスは色彩の画家ですから、陰影ではなく。ぱっと見たときに、何か子どもが描いたような絵にも見えるのですね。その後にゴッホが出て、モネが出て、そして明治時代の天下藤次郎という水彩画家の絵が出てという、何か結びつきが自然にずっと、アカデミックに持っていこうとするとところが非常に気に入りました。あとは鈴木其一の朝顔の屏風もあったし、何か押さえるところはすごく私としてはいいなと思いました。

開隆堂のほうは、もう少し時代的には今に近い、取り上げている画家もマグリッドとかキリコ、ワイエス、横尾忠則というので、やはり時代的に今に近い、やや前衛に近いような作家を取り上げているところからも、だから好みにもよるのかもしれないのですが、その違いがあるのかなと。どこかでアカデミックな印象派とか、あるいはマティスとか、その辺を結び付けていくところがいいなと思いました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 大野委員のように詳しくはないのですが、感覚的に、図工の教科書2社を見させていただいて、それぞれわくわく感があって楽しいなと思いました。審議会報告を見させていただくと、日本文教出版さんのほうが、手順が分かりやすく指導しやすいということで、興味を引くようにうまくまとめられている部分が強いのかな。開隆堂さんのほうは、目当てが、分かりやすい部分があるのかと思いますけれども、どちらかという日本文教出版さんのほうを推奨したいと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 2社とも楽しく創作できるような工夫がたくさんされている教科書だなと感じました。日本文教出版のほうは、いろいろな素材で事例紹介もしているということで、子どもたちにとっては、どんなことをしたらいいのかなと分からない子たちにも取り組みやすく、自分で自由にやってみようと思う子はチャレンジできるような仕組みになっているのかなと思いました。

「保護者へのメッセージ」というページがあって、それは、どうしてこの単元を行ったかということが書いてあり、一緒に保護者の方も図工に関して、どんな目的があって楽しんだか、チャレンジしたかということが分かり、親子での会話も広がっていくのではないかなと感じました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 図画工作の教科書の作品を見て、これを描きましょうとか、これを作りましょうではなくて、こういったものをヒントに私は作品を作りましょうという、そういうものだと思うんですね。そういうことで見ますと、やはり手順が分かりやすいとか、そういったところに力を入れているという報告が審議会委員からありましたけれども、日本文教出版社のほうが推しなのかなと思います。

1つだけ、背景色が全体に薄いところがちょっと気にはなるのですが、私も実際に見て、確かそういうことを感じるかなと。逆に開隆堂さんのほうは色味がよいと書いた報告がありますけれども、そういう点で迷いましたが、どちらかといったら日本文教出版社になるかなと感じてございます。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

それでは、私は、ここは開隆堂出版がいいのかなと思いました。活動の様子ですとか、あるいは写真が大きく、児童の興味・関心が高まるのではないかなということ。またその発達段階に応じてのコンセプトだと思うところですが、「わくわくする」というところから始まって、「つながる思い」で終わるという形ですが、これはすごくいいなと思ったところです。

個別の部分で申し上げますと、5・6年の下巻ですが、「人とともに未来をつくる」というところでは、人に優しくというところでピクトグラムの紹介、人を支えるでは誰もが使いやすいハサミ、人とつながるでは、様々な人が働いているところの共同作品ですとか、あるいは車いす利用者が利用しやすい水飲み場の紹介というようなこと。これらは図画工作の学習が、人とともに未来をつくるという記述がされており、これは非常に私としてはよい記述だなと思ったところがございます。

それでは、図画工作でございますけれども、多くの委員が日本文教出版を採択するというご意見でしたので、日本文教出版を採択するということがよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、図画工作は日本文教出版を採択することといた

します。

続いて、家庭についてです。ご意見をお願いいたします。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 家庭科は実際の生活に関する部分を少ししっかり見ていこうという内容かなと思って、それをしっかり理解することによって、自分自身の生活をもう一度考えようみたいな部分につながっていくのかなと思いました。2社さん、開隆堂さんと東京書籍さんで、東京書籍さんは、生活をもっとよくしていこうみたいな感触を強く受けまして、開隆堂さんは、自分自身ができることを増やしながら、生活を変えていくみたいなことが、ニュアンスが若干違うのかなと勝手に感じた部分があったのですが、私とすると、自然体に近い開隆堂さんのほうがいいかなと感じたところでございます。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 2社とも分かりやすく、写真がたくさんで、子どもたちも取り組みやすいのではないかなと感じました。SDGsの関係で2つ比べると、開隆堂さんのほうが、より深く学ぶことができるのかなと思いました。資源の使い方だったり、生活課題の実践ということで、より身近な素材を使って考えて気づく、そういった内容になっているのかなと感じました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 家庭の学びで、いろいろなことを学ぶとか知るとかということももちろんあるのですが、その学んだものが、結構大人になってからも役立つような内容かなと思って、これは私も家庭の教科書を日常生活に取り入れようかなと思ったくらい役に立ちそうだなと思いました。つまり、学びやすさもそうですし、それから生きる力の基になるような、そんな教科書が2社ともできているのではないかなと思いました。そんなに差はないのですけれども、SDGsのことも今、出ましたが、そういったこととか、どちらかという、大人になってずっとそのことが生きていくようなニュアンスがちょっと強そうな開隆堂を推したいと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 非常に迷ったのですけれども、どうして迷ったかという、ほとんど、全部かどうかわからないですが、例えば「食べて元気に」という項目ですね。その單元では、イネがあって、それからお米になって、それからご飯になると。みそについてもそんなようなことが、本当に同じような写真と同じような工程で述べられているので、どっちでもいいのではないかというのが、そこだけ見ると私の正直なところでは、料理、調理に関しても、ゆでて炒めるということも同じですし、だから、あまり大きな差をここでは感じませんでした。

今現在使われているところは、選択するプロセスにおいてそういう判断があったのだと思ひまして、そういう意味で開隆堂にしたいと思ひます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

それでは、私も開隆堂でよろしいのではないかなと思ったところでございます。2社とも持続可能な社会づくりですとか共生社会、他教科との関連などの記述が十分なされているなと思ひしております。その中で開隆堂がいいと思ひた部分は、家庭や地域の安全、防災というところで、障害のある人ですとか、あるいは高齢者、介護を必要とする人への配慮の記述があるということ。あるいはイラストもあり、とてもよ

いなと思ったところでございます。

余談になりますが、先ほど操木委員がおっしゃったように、本当に家庭の教科書は、我々大人ももう一回読み直したほうがいいのではないかと考えたところでございます。

それでは、家庭についてですけれども、皆さん、開隆堂というご意見でしたので、開隆堂を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、家庭については開隆堂を採択することといたします。

続きまして、体育（保健）についてに入りたいと思います。いかがでしょうか。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 保健の教科書は、実際に生きていく中で、健康で明るく楽しく生活していくということのイメージを作っていくような部分かなと思っているのですけれども、ちょうど小学生から中学生に向けて、特に中学年、高学年くらいになって、心とか体もだんだん発達していく中で、多くの変化とか、様々なことを感じたりしていく時期ですね。そこら辺について、どういうふうに教科書で子どもたちに伝えていくのかということは、1つ大きなポイントかなと見させていただきました。

6社さん、出していただいております、それぞれのところでの特徴が若干違うと思うのですが、私とすると、そこら辺の子どもの体とか心の変化に対してのところはちょっと注目させていただいて、そこら辺のところの方が分かりやすく書いてある。細かくはいろいろありますけれども、いろいろな害ですね。たばこであるとか、お酒とか薬についてもしっかり書かれていたり、あとSOSの出し方ですね。これは最初に子どもの段階で出てくる。どんどん今、低学年化してきていますけど、そこら辺もしっかり書いていただいているなと思いましたので、G a k k e nさんの教科書を推奨したいと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 体育の保健ですけれども、やはり自分の心とか体とか、もっと言うと自分の命だけではなく、ほかの人の命を守るためにとても大事な教科の学びだと思いますが、そのとっても大切な学びには、やはり興味を持たないと取り組めないと思います。そういう意味で、もっと知りたいとか調べたいとか、そういった気持ちを湧き立てるような、そういう細かな記載をされているということで、審議委員からも評価されておりますG a k k e nを推したいと思います。そういった視点からとても分かりやすかったこと、それから単元の流れとか、文字、資料、また書き込みのところ、こういったところが非常にバランスがよくていいのではないかと思いました、G a k k e nを推したいと思います。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 東京書籍の教科書は、共生の視点というところが充実しているように思いました。深く学べて、いろいろな人がいるということを知る機会になる上で、いい教材だなと感じました。

健康面で分かりやすく表現されているのはG a k k e nさんかなと思います。自分で考えるきっかけを見つけて、友達とも話し合いをして、それを生かしていくとつながる、その流れが分かやすいものだなと思ったので、G a k k e nさんがよいなと感じます。デジタル教科書も充実していて、今後、保健だけではなく、不登校の児童が学びやすくしていくためにも、デジタル教科書でいつでも自分で課題を見つけて進められるものになるのかなと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 健康面で、たばこの害ということを中心に見たのですけれども、ほとんどの教科書で、正常な肺と、それからたばこを吸ったことによって真っ黒になってしまった肺がリアルに載っていて、そこではどの教科書も説得力があるなと思いました。

G a k k e n ですから、はっきりと受動喫煙はよくないと述べられていて、副流煙のほうが主流煙よりも、ニコチンとか幾つかの項目にあったのですけれども、ある項目では 4.7 倍ですか、そのくらいの害があるのだということもはっきり述べられていますし、微妙な差かもしれないのですけれども、G a k k e n を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

それでは、私も G a k k e n でよろしいのかなと思いました。報告にもありますように、系統性がはっきり示されており、つながりを意識して学習を進められるというところがよろしいのかなと思いました。特に着目をした点を申し上げますと、5、6年の教科書ですが、インターネットでトラブルにならないためにということがございまして、共に生きる社会に向けてに関する記述ですとか、あるいは、加えて障害者理解に関して写真、あるいは資料が多く引用されている点がよいなと思いました。

1点、もうちょっと記述があったらいいなと思ったのですが、同社で、3、4年の部分で、やはり今の時代環境を考えたときに、もう少しスマートフォンとの関わり方が記述をされているとよりいいのではないかなと思ったところがございます。

それでは、保健についてですけれども、皆さんも G a k k e n を推薦するというところでございましたので G a k k e n を採択するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、体育(保健)は G a k k e n を採択することといたします。

続きまして、外国語についてです。いかがでしょうか。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 外国語に関しては、多分、現在使っている教科書が出来て初めての改定になるかなと思います。6社さんから出していただいております。現在使っているのと比べてみたのですけれども、より動きが活発になったり楽しくなったり、そういう工夫がされているのかなということを見ていたところです。

結果的に、現在使っている教育出版さんが、楽しく勉強に入っていけるかなということを感じたところで、また推奨したいと思うのですけれども、光村図書さんも、会話を重視しているような感じもあるので、これもいいのかなということも一緒に感じた部分でありますけれども、どちらかという教育出版さんを推奨したいと思っております。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 一番ベーシックなのは東京書籍なのかなと思いました。充実してみっちりやるのが三省堂クラウンなのかなと、そんな感想を持ったのですね。教育出版も随分絵が多いとは思ったのですけれども、審議会からは苦手な子を少なくしたいと。苦手な子が取り組みやすい教材だという意見がありましたので、教育出版でいいなと思いました。先生方がどの程度の、どういうレベルの教科書がふさわしいかと

いうことはよくご存じだと思うので、そこを尊重して、そう思いました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 小学校の外国語につきましては、外国語が始まる前に、大人も子どももすごく期待をして、早く始まらないかなと心待ちにしていた教科の1つでもあると思うのですね。それでまた、それに向けていろいろな準備が始まって、教材とか、それから先生たちの学びも進められていってスタートしたのですが、スタートして少し時間がたってきますと、やはり楽しいだけではなく、ちょっと難しいなとか、こんなはずではなかったと感じている子もいるようです。

かつて、中学校で何に期待していますかという質問に対して、英語を学びたいとか、そういった声があったのと同じようなことが少し起こっている、そんな現象もあります。ここでやはり外国語について離れてしまったら大変なことになりますし、小学校の、特に外国語につきましては、子どもたちが分かりやすい、学びやすい、そういった気持ちが育つようなことが大事かなと。そういった視点で私は外国語の教科書を見ていました。その視点で見ますと、教育出版社がいいかなと思いました。

具体的に申し上げますと、これも審議委員からたくさん声が出ていますけれども、イラストとか写真とかがとても大きくて、児童が興味・関心を持ちやすいと評価されていますけど、そのようなことを私も感じました。そして、やはり1ページの情報量が精選されているということで、子どもたちの負担が少ない、ここがやはり大事だと思いました。それから負担が少ないとか分かりやすいとかいう点では、教科書は見開きで全体を大きく使われていまして、すごく訴える力もありますし、引き込まれていくのですね。見開きの使い方がとっても上手だなということ。それから大人にも子どもたちにも、教科書の冒頭に、学びの見通しが立てやすいようにロードマップがあるのですけれども、そのロードマップによって、これから何が始まって、最終的にどういうところを目指すのかという、そのゴールを見ながら学びを進められていくということが非常に優れているなと思ひまして、教育出版社を選びました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 英語では会話重視でどんどん話せるのがいいかなと思いつつも、やはり苦手意識を持ってしまう児童もいるかと考えて、教育出版社で、楽しみながら学べる教材がよいかと感じました。イラストや写真もたくさんあり、題材が取り組みやすいものになっているのではないかなと思いました。英語、英語というよりは、アルバムを今度作ってみようとか、世界ツアーの紹介をしようとか、自分の夢を発表しようとかということが題材になっていて、自分の興味関心を深めながら英語に親しむ教材になっているかなと感じました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

私も教育出版社でよろしいのかなと思いました。多くの委員の皆さんから出ていましたとおり、写真やイラストが見やすいということ、1ページ内の情報量も適切で、やはりここが大事だと思うのですが、児童が苦手意識を持たない工夫がされているのはよろしいと思います。また、大きさも取り回しやすくよいと思ったところがございます。

個別になりますけれども、障害者理解に関しての部分で申し上げますと、5、6年の表紙には、車いす利用の児童のイラストが描かれています。また、ほかにも同様のイラストが他社より多く採用されていると評価をいたしました。5年では、辻井伸行さん、上地結衣さんの写真を引用しているということも、とてもよろしいかなと思ったところがございます。

それでは、各委員の皆様の意見ですと、教育出版を採択するというご意見だったと思います。外国語については教育出版を採択することによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは外国語は教育出版を採択することといたします。

では最後に、特別の教科 道徳についてです。どなたか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 東京書籍と光村がいいなと思いました。ただ、共通に取り上げられている教材もあって、例えば「ぼくの名前を呼んで」というのが両方の教科書に出てくるのですけれども、それは調べていただいたのですが、文章がちょっと違うのですね。どうしてかなと思ったら、原文をそれぞれの出版社が小学生用に書いたことによってその違いが出ていることが分かりました。どちらがどうということは、内容的にはもちろん変わらないわけですが、その書き換えによっての差はないと思うのですが、同じ教材が使われていたと。

それから、東京書籍では、「東京大空襲の中で」という文章があって、3月10日の空襲があって、そのさなかに出産をした話が書かれていて、よく戦争の悲惨さということがその文章で伝わってくるなと思いました。また、ほかの教科書で出ましたが、中村哲医師の紹介もあったと思います。

光村のほうは、世界人権宣言に触れているのは非常に大きなことだなと思って、今後、世界人権宣言というのは、非常に重要な位置づけをさらにされていくのかなと思いました。訳として、谷川俊太郎がそれを訳していると書かれていたのですが、非常に基本的な、自由にそれぞれが生きるのだということが、その条文が書かれているところは注目すべきところでした。

同じ光村ですけれども、鯨がプラスチックで作られているということですが、写真が載っていて、ただ、ぱっと見ると、あたかも鯨が海の中のプラスチックごみを餌として食べて、そして打ち上げられたように見えるものですが、これも考えさせられる、非常に大きなヒントになる衝撃的な写真だったと思います。

また光村ですけれども、「気に入らなかった写真」という、これは漫画仕立てになっているのですが、お友達に、ある投稿をしたことによって、投稿は勝手にしないでくれと、まさに今、起きているような問題を取り上げているところがよかったと思います。

どっちなのかという話ですけれども、光村もとてもいいのですが、1つ1つの文章が結構長いので、授業時間中に読むだけで終わってしまうのかなと。何回に分けてやってもいいのですが、ややその辺があるのかもしれませんが。両方推したいところですが、東京書籍ということで推奨したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 道徳の教科書、読み物ではなくて、自分を見つめるとか、それから自分の生き方を考えるための材料だと捉えているのですね。そういう視点で各社を拝見させていただきましたけれども、それぞれの教材といたしますか、取り上げたところは、皆そういった視点に答えていて、それぞれの内容をすばらしいなと思いました。

最終的に、私は日本文教出版とG a k k e nに絞ったのですが、今言ったような視点を皆さん、各社取っているのですが、特にG a k k e nについては「心のパスポート」や「深めよう」というページにすごく興味を持ちました。また、日本文教出版については道徳ノート、これはどこの学年にも同

じ書き方で使うことができるようになってきているということは、ずっと学年が上がっていても、道徳について、道徳とは、どういうことを自分で考えるための時間なのかとか、そういったことが非常に分かりやすいのかなということ、それから、その時間だけではなく、やはり日常生活の中に生きてくるのが道徳ですので、「ここにも道徳」という。ここがやはり優れているなど感じまして、最終的には日本文教出版を推したいなと思いました。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 こう考えなければいけないよというのではなく、どんな学び方をするのかなという導入から入って、その子どもの気づきだったり、自分で考えて、それが広がっていくのをサポートする、そんな仕組みになっているのが東京書籍の教材かなと感じました。「泣いた赤鬼」のイラストは本当に豪快で、分かりやすく、子どもの心を引きつけるのではないかなと思いました。また、防災や殺処分など幅広いもの、教材が扱われている点と、SDGs のことに、子どもたちは気づきをそれぞれの学年で持ってほしいなとも思うので、そういった点で、2年生で「もったいない」が入っていたり、6年生で「地球を守る」が入っていたり、山の写真から自然を守ることを考える、そういった教材になっているところで、この教材で子どもたちに学んでもらいたいなと感じました。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

山口委員、お願いいたします。

○【山口委員】 道徳が教科化になって、教科書が出来て、6年前くらいですか、最初に教科書が出てきて。何か最初の頃は、2年間たって、また教科書採択があって、だんだんその中で作り方とか、あと教材、中に出ている内容も少しずつ変わってきたりしているなど思いながら、今回も見させていただきました。今回はもう大分たっていますから、道徳の授業もいろいろなところで見させていただく中で、本当にこなれてきているなということを感じたのですけれども、今回は、教科書を見るときに、私はやはり人権というのが今、一番重要になってきているのかなと思ひまして、さっき大野委員も言われましたけれども、世界人権宣言、それから子どもの権利条約のこととか、教科書も結構触れさせていただいていいなと思ひます。ただ、小学生ですから、触れ方がすごく難しいと思うのですが、その中では、僕は光村さんのところの触れ方はしっかりできているなということを感じたところでございます。

それから、もう1つが、東京書籍さんと光村さん、両方とも表紙を開けたところに詩が載っていて、それがやはり会社さんの方向性みたいなのを表しているのかなと感じたところです。授業でどう使われるかは分かりませんが、光村さんの「みんな 生きてる／みんな 生きてる」という言葉はずっと共通していましたが、いいなということを感じたところでもあります。ただ、光村さんは、先ほど大野委員も言われたように、多少文章が長い部分があるのですけれども、正直言ひまして、光村さんと東京書籍さんと、両方迷っているというのが今の状況ではあります。

あと、東京書籍さんを現在今、国立市は使っているのですけれども、ちょっと気になった教材は、今回なくなっておりましてよかったなと思ったのですが、一番いいなと思った教材もなくなってしまっていて、残念だなと。何がというのは言ひませんが、そういうところもあって、そこら辺はそれぞれの会社さんの考え方で、内容も若干変わってきているかなと思うのですが、そんなようなことで、結論を言ひますと、光村さんと東京書籍さんと両方悩んでいると。どちらかということで推したいと思ひます。以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

それでは、私は、道徳については東京書籍を推薦したいと思いました。巻頭に何を学ぶのかなという一覧がありますけれども、とてもシンプルで分かりやすくまとめられているということ、それから、先ほど出ていますが、社会問題の教材としての、動物の殺処分ですとか、SNS、感染症など、これらは身近でとても関心を持たせやすいのではないかと思います。

特に6年の「つながる・広がる」、こちらの様々な角度から情報を確認しようというのは、とても分かりやすく書かれていると思いました。エコーチェンバーのことですとか、あるいは別の考え方がないのかとか、これは少しずれるのですが、インターネットやSNSには似た考え方の人同士のつながりを強化する機能があるということが記述をされており、これは私たち大人も改めて考えなければいけないと感じたところでございます。

また、人権やダイバーシティという観点から見たときに、「みんないっしょだよ」という、黒柳徹子さんですとか、『あきらめない』手助けをしたい」ということで、技師装具士の臼井二美男さんを紹介しているという内容も、個別の部分ではとてもよろしいのかなと思いました。

では、取りまとめになります。日本文教出版さんを推すご意見と、東京書籍、それから光村というような、お1人の方は、山口委員は、光村と東京書籍でちょっと悩んでいるというご意見でした。総合すると、東京書籍でよろしいのかなと思うところですが、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは特別の教科 道徳については、東京書籍を採択することといたしたいと思います。

これで小学校全教科の教科用図書の採択が終わりました。それでは確認のために、事務局から本日採択いたしました教科書を読み上げて、確認をしていきたいと思います。

荒西教育指導支援課長、お願いいたします。

○【荒西教育指導支援課長】 それでは、ただいまご採択いただきました教科書についての確認をさせていただきます。

国語、光村図書出版。国語の書写、光村図書出版。社会、教育出版。社会の地図、帝国書院。算数、東京書籍。理科、教育出版。生活、東京書籍。音楽、教育芸術社。図画工作、日本文教出版。家庭、開隆堂出版。保健、G a k k e n。外国語、教育出版。道徳、東京書籍。以上になります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ただいま荒西教育指導支援課長から全教科について採択図書を読み上げていただきましたが、間違いございませんでしょうか。

ありがとうございます。それでは、ただいま荒西教育指導支援課長から読み上げられました図書を令和6年度使用国立市立小学校教科用図書として採択をいたします。

以上のとおり、国立市小学校における令和6年度から使用する教科用図書が採択されました。教科用図書は学びの基本となるものでありますが、1つのツールであると考えているところでございます。これを基本として、いかに児童の興味関心を引き出すか、その力量は大切と考えているところでございます。ぜひとも教員の皆様には、様々な研修、調査研究を通して、教える人から、学びを引き出す人になっていただければと期待するところでございます。

最後に、本採択に当たりまして調査研究に携わっていただいた教科用図書審議会並びに調査研究会の先生方のお力添えに厚く感謝を申し上げますとともに、教科用図書採択にご意見、ご要望等を頂きました市民の皆様、保護者の皆様にお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

これで小学校教科用図書の全教科書の採択が終わりました。どうもありがとうございました。おおむね

1 時間を経過しておりますので、こちらの時計で 3 時 55 分再開いたします。休憩に入ります。

(休憩)



○議題 (3) 議案第 48 号 令和 6 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について

○【雨宮教育長】 それでは、休憩を閉じて、議事を再開いたします。

次に、議案第 48 号 「令和 6 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」を議題といたします。

最初に事務局から説明をお願いいたします。

川畑指導担当課長、お願いいたします。

○【川畑指導担当課長】 それでは、議案第 48 号「令和 6 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」ご説明します。

地方教育行政の組織及び運営に関する第 21 条第 6 号及び、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条第 1 項に基づき、令和 6 年度に国立市立小中学校知的しょうがい特別支援学級で使用する教科用図書の採択となります。

国立市特別支援学級教科用図書採択要項に基づき設置されました教科用図書審議会の調査及び審議結果につきましては、7 月 18 日に開催されました教育委員会定例会において、教科用図書審議会委員長から、机上に配付しました資料のとおり報告させていただいております。

なお、小学校の各教科の検定本につきましては、資料の発行者名が空欄となっておりますが、先ほど議案第 47 号で採択いただきました小学校の教科用図書を使用することとなります。

説明は以上になります。ご審議のほど、よろしくをお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ただいま指導担当課長からご説明いただきました。

それでは、審議に入りたいと思っておりますけれども、こちらも 7 月 18 日開催の定例教育委員会で、教科用図書審議会から審議結果の報告を受けたところでございます。改めてご意見などございますでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 その 7 月 18 日にも質問したのですけれども、具体例で言うと、例えば一中の英語と、それから三中の英語、これは片方が検定本であり、三中のほうが検定本ではない、『New a b c o f E n g l i s h』というのを使っている。これはどうしてなのでしょうかとこの質問をしたのですけれども、それぞれの学校に即して、学校に即してというのは、その生徒の実情に合わせて採択をしたのだという回答がありました。今後におきましても、それぞれの状況を見ながら最適な教材を選んでほしいということをお望みして、その話は終わりましたので、今後も引き続きよろしくお願ひしたいということになります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかに。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 同じ内容になりますけれども、インクルーシブ教育の視点から、検定本をできるだけ使っていこうという各学校の姿勢が感じられました。それから、しかし個別最適な学びを大切にする、保証するということから、児童や生徒の 1 人 1 人の事情に応じ、適した教科用図書を採択しているということが見受けられましたので、各学校、また引き続きこういった取組をしていただきたいと思いますと感じました。以上、感想でございます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは採決に入りたいと思います。皆様ご異議がないようですので、審議結果報告のとおり採択してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。議案第 48 号「令和 6 年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」は、審議会の審議結果報告のとおり採択いたしました。

これで本日の審議案件は全て終了いたしました。なお、次回の教育委員会は定例会を 8 月 22 日火曜日、午後 2 時から。会場は国立市役所 3 階、第 4 会議室で開催することが決定しているところでございます。

以上をもちまして本日の臨時会を閉会といたします。皆様、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

午後 4 時 00 分閉会